

平成28年度第1回秋田県職業能力開発審議会の要旨

【日 時】 平成28年5月16日（月） 午後3時～午後4時30分

【場 所】 秋田市山王 ルポールみずほ3階 「ふじの間」

【出席者】 学識経験者：江島委員、佐々木委員、高橋委員、高谷委員、丸山委員
事業主代表：雑賀委員、野口委員、山内委員
労働者代表：荒井委員、工藤委員、佐藤（和）委員、菅原委員
特別委員：森岡委員、佐藤（有）委員
（事務局）：岩澤産業労働部長、石川雇用労働政策課長ほか関係職員

【概要】

- 1 開 会
- 2 秋田県産業労働部長あいさつ
- 3 秋田県職業能力審議会会長あいさつ
- 4 新任委員自己紹介（工藤委員、佐藤（和）委員、佐藤（有）特別委員）
- 5 議 事
 - （1）協議事項
第10次秋田県職業能力開発計画の策定について
 - （2）報告事項
 - ① 平成27年度県立技術専門校の就職状況について
 - ② 平成28年度県立技術専門校の入校選考の状況について
 - ③ 平成27年度職業能力開発事業の実施状況について
 - ④ 平成28年度職業能力開発事業の実施計画について

事務局から協議事項について、説明（策定スケジュール及び10次計画（素案）の概要）があり、質疑応答を行った。

特に異議を唱える意見も無く、事務局が示した策定スケジュール等により進めていくことと、認められた。

主な質疑応答等は次のとおりである。

（協議事項）

第10次秋田県職業能力開発計画の策定について

○ 若年者の就業状況について、ニート、フリーターの全国の数値はありますが秋田県の現状はどうなっていますか。また、全国的に見てニートの数が高い、低いは出ていないのですか。

→ 全国の数値しか出ていませんが、推計という形で出しています。例えば、平成27

年のニートの数は56万人で、これに対して秋田県の人口は全国の0.89%ですので、4千数百名と推計されます。ニート等はなかなかつかめない数のため、国勢調査を基に若年で無業の状態の者を取り出して求めることもあり、単独の調査で数字を出すのは厳しいです。

- 鷹巣技術専門校の建築工芸科について、平成28年度は応募者3人、入校者3人、平成27年度は応募者4人、入校者2人であり、これでは学級にならないし、勉強の意欲がなくなるのではないのでしょうか。普通課程高卒以上への移行としていますが、根本的に変える必要があるのではないのでしょうか。

内装と防水の技能士や職人が不足しており、育成するために仙台や東京に派遣しています。現在は多能工であり、大工の仕事ばかりではありません。

- 中卒者の入校が激減しており、その傾向は今後も変わらない見込みのため、課程を中卒から高卒にします。高校への説明、準備をしっかり行い移行していきます。それに伴いカリキュラムも変わりますので、できるだけ地域のニーズを反映したものにしていきます。

- 女性の職業能力開発の推進で、子育て中の女性が受講しやすい託児サービス等で職業訓練の機会を増やすとありますが、コースによってはeラーニングを活用しても良いのではないのでしょうか。以前、障害者の訓練でeラーニングを活用するという提案もありました。eラーニングの活用と訓練校等での訓練を合わせ、受講のハードルを下げるような訓練があれば、もう少しいろいろな人が受講できると思います。

- 障害者の訓練でeラーニングを活用したものはありますが、求職者等一般の訓練にはまだありません。国と連絡を取り合い訓練機会が増えるように取り組んでいきます。

- キャリアコンサルティングの関連で、工業高校生に対して意識付けや気づき、技能検定への意識を高めるためのキャリアコンサルティングの実施の機会があってもいいと思いますがどうでしょうか。

- 工業高校生をはじめ高校生に対してのキャリアコンサルティングやキャリア形成支援は、基本的には学校の先生が行っていますが、様々な企業の人に学校に来てもらい、外部の方の力をいただきながら支援を行っています。また、技能検定の受検や資質能力を磨いていく中で培っています。

- ものづくりマイスター派遣状況について、由利工業高校へは旋盤、フライス盤、木材加工のマイスターを派遣いただき、技能検定や各種ものづくりコンテストで実績を上げており、これからもマイスター等の派遣をお願いします。

技能の振興・継承の部分で県民に広く周知するとありますが、以前、若年者ものづくり競技大会で銀賞をとった際、新聞には少ししか載りませんでした。企業の方や県民がものづくりに注目、期待しているという意味も込めてもう少し取り上げて欲しい。

- 若年者ものづくり競技大会、技能五輪、技能グランプリの入賞者については県庁に報告に行くほか、地元新聞にも取り上げられ、PRに関しては間違いなく行っていま

す。旋盤等の派遣に関しては毎年継続して行うことはいいことですし、工業高校生の企業訪問もたくさん行っています。予算の許す範囲で出来るだけ行っていきます。

○ 慢性的な人手不足に悩んでいます。オフィスビジネス科に求人を出した時点で、すでに全員内定という状態でした。応募者数が多い科の増員等はできないでしょうか。

我々としては社会人としての一般常識やビジネスマナーを身に付けた人材がほしい。人気のある科の増員等は考えていませんか。

→ リーマンショック後に高校生の就職率が悪くなり、定員20名のまま全体で調整して4名ほど増加させたことがあります。10名、20名の増員は教員の配置や設備等を変える必要があることなどを踏まえて検討が必要となります。人気があり需要があるということで1割増し位であれば可能です。

○ 計画の位置付けについて、昨年10月に公表された総合戦略だけでなく人口ビジョンとも関わりがあると思うので、10次計画にも反映させて取り組んで欲しい。

→ 総合戦略も人口ビジョンを踏まえていますが、10次計画への取り込みや記載も検討していきます。

○ 成長が見込まれる分野の人材育成について、秋田で新たなビジネスチャンスが高い分野として、例えば養豚業、JAや鹿角で養豚場を営んでいる人がおり、世界的な食の安全が言われる中で輸出も踏まえた安全な食品作りのポテンシャルが高いと思います。また、秋田の米を今一度盛り上げていくための戦略が必要だと思います。お酒もあります。秋田のお酒はプレミアム度が高く、県外だと高値です。こうした既存のものづくりを全国、世界に発信し秋田をPRするノウハウを高めていくことも必要です。さらに、秋田犬も世界的に魅力的になっています。養豚や犬の生産もものづくりの一環として考えると地場産業が盛り上がっていくのではないのでしょうか。

→ 秋田の米のブランド力が低下しています。一方で、東成瀬村では、全農には出さず、おいしい米だけを東成瀬村の米として出しています。TPPではこのように特化していかないと太刀打ちできません。

秋田犬についても大館市が未来づくりプロジェクトとして駅前に渋谷駅にある犬の像の設置を検討したり、銀座の歩行者天国で秋田犬25頭を1時間散歩したりしましたが、県内での秋田犬の生産力は落ちております。

土を使わない野菜が東京できれいな野菜というパッケージで売られていましたが、土がない、イコール、きれいともみられるのは危惧されます。

お酒についても、ネクスト5のみならず秋田の酒の評価が高まっており、酒の工場に対しても生産性向上支援ということで、ものづくり分野のカイゼン工程を入れているほか、食品産業にもカイゼン工程を入れ、今年から農業法人にトヨタのカイゼン方式を入れています。ものづくりと農業振興の一体化が重要となっております。

トヨタ東日本を訪問した際、工場長と意見交換をしました。トヨタ東日本には東日本学園があり定員20名で新規採用15名の研修を行います。今年は100名近く高卒を採用し、15名のうち4名が本県出身です。いずれも工業高校を出て、トヨタの

最新工場で溶接等の研修を1年間行い、人材を育てていくものです。本県の社員は毎年優秀という言葉をもらいました。

(報告事項)

- ① 平成27年度県立技術専門校の就職状況について
- ② 平成28年度県立技術専門校の入校選考の状況について
- ③ 平成27年度職業能力開発事業の実施状況について
- ④ 平成28年度職業能力開発事業の実施計画について

(質問等無し)